

# 会議・視察報告

## 「北東アジア国際観光会議 in 北九州会議」報告 —北東アジア地域間の国際観光振興と協力に向けて—

ERINA 特別研究員 鈴木伸作

国際観光の振興と北東アジア地域間の協力と連携に向けた国際会議「北東アジア国際観光会議 in 北九州市」が2014年8月21日から22日に北九州市で開催された。今回の会議は2013年韓国金泉市での開催に引き続き、「北東アジア国際観光フォーラム」(International Forum of Northeast Asian Tourism、以下IFNATと略す)と東北アジア観光学会(TINA)との共催によるものである。

IFNATは2002年に日中の観光学研究者にERINAが協力する形で発足した「日中共同観光会議」が母体となり、2004年に日本、中国、韓国の3ヵ国の参加により大連市で第1回フォーラムが開催され、今回の会議は記念すべき第10回目の会議となった。この10回目は開催地の北九州市が積極的に進めている「観光産業の活性化と国際観光の振興」をメインテーマに行われた。サブテーマとして、第1回からの基本テーマでもある「北東アジア地域間の国際観光の推進と連携協力」も取り上げられ、国際観光振興についてのより具体的な提言と連携事業、会議運営のあり方など実質的な議論が求められる会議となった。

このフォーラムの底流には、「北東アジアを平和で繁栄した地域にしてゆくためには、国境を越えた交流の促進が重要であり、なかでも観光関係者が協力関係を強化し、連携のもとに観光戦略を共同で策定し、実行すること」という意識がある。特に日韓、日中などの隣国との政治的関係が観光交流にも大きな影響を与えている現状において、このフォーラム開催の存在意義と役割を再認識した。以下会議の概要を報告する。

### (1)第10回IFNAT北九州会議の概要

北九州会議は「2014北東アジア国際観光会議 in 北九州市」として、IFNATとTINAが主催し、開催地の北九州市の共催、国土交通省九州運輸局、福岡県、九州観光推進機構などの後援、JT九州による協賛で開催された。日本、韓国、中国、モンゴル、ロシアの5ヵ国から行政、大学・研究機関、観光旅行会社、農業経営者、輸送業、学生など約170名が参加し、北九州国際会議場を主会場に開催された。

今回の会議には久しぶりにIFNATの会員国5ヵ国全員

がそろった。それ以外に特筆すべきは、第5回以来オブザーバー参加している北朝鮮の関係者も出席し報告を行ったことである。

会議の共通テーマは「産業観光」で、サブテーマとして「北東アジア地域の国際観光の振興と連携について」、「北東アジアの文化・ビジネス・経済交流の強化」が設けられ、北東アジア地域の観光振興と協力、観光ネットワークの構築などを中心に5ヵ国各国代表による基調講演や4つの分科会が開催され、参加者による意見発表と討論がなされた。この会議には恒例の学生による観光提言発表大会も併せて開催され、多くの学生が参加した。最終日には、会議を総括し今後の会議の役割と方向を示した大会宣言が採択された。

### (2)開会式

会議1日目の午前中は合同会議として開会式、開催地代表と参加国代表5人による基調講演が行われた。開会式では北九州市の北橋健治市長、IFNAT日本委員会会長の小島隆氏、東北アジア観光学会会長の金光根氏が挨拶した。また、国土交通省九州運輸局企画観光部長・榎本通也氏が日本政府を代表として祝辞を述べ、参加国の会議に果たす役割と期待を伝えたことは、各国参加者が会議への参加意識を高めるうえで大きな意義があった。これも日本政府が推進しているビジット・ジャパン事業を中心とする国際観光振興策への取り組みとして、海外からの観光客誘致の重要性と積極的なプロモーションの現れと高く評価したい。

### (3)基調講演

基調講演には開催地を代表して北九州市産業経済局長の西田幸生氏が、「北九州市の産業観光」について講演した。また、IFNATの設立当初から会議を牽引してきた中国社会科学院観光研究センターの名誉主任・張広端氏が「隣国観光」と題して隣国観光の重要性とその振興の方法、言語環境問題の克服をあげ、隣国同士の協力と観光を通じた友好交流を積み上げる重要性について提言した。

また、日本代表として、地場産業振興と観光が連携した「工場の祭典」を積極的に開催している新潟県三条市長・國定勇人氏が「ものづくり・伝統文化を活用した三条市の

活性化」をテーマに講演した。

そのほか、韓国を代表し大邱大学校経済経営学部長の Lee Ju-Hee氏が韓国政府が近年推し進めている「森林観光」について、自然との共生や森林レクリエーションを観光につなげる実例と研究成果を発表した。モンゴルからは、モンゴル国内観光の現況と観光名所についての紹介があった。ロシアからは、極東連邦大学教授のTigir Khuziyatov氏が「沿海地方の観光政策の現状と課題」と題し、近年、国際会議や観光地として注目を浴びているロシア極東地方の自治体の観光政策の実例と課題について発表した。

#### (4)分科会

分科会は北東アジア観光学会が4分科会で30名、IFNAT分科会では10名が発表報告し、それぞれ活発な意見交換や討論が行われた。また、各国の発表者が、自国の観光資源の将来性について大きな自信を持っていることを感じるとともに、各国の取り組みや国際観光についての振興レベルの相違はあるものの、地域間国際観光交流の重要性と未来志向についてはベクトルが同じだと強く感じた。

また、オブザーバー参加した北朝鮮の観光旅行会社である中外旅行社の韓正治社長が、北朝鮮の観光政策や観光施設の現況と今後の国際観光参入について報告し、北朝鮮の具体的な観光情報について大きな関心と呼んだ。次回も北朝鮮関係者の参加が楽しみである。

#### (5)学生国際観光発表大会

学生発表は「学生国際観光発表大会」として韓国4チーム、日本9チームが参加して開催された。特に日本からは東京の桜美林大学のほか、地元九州の九州国際大学、北九州市立大学、中村学園大学、西南学院大学など4大学が積極的に参加し、韓国からは大邱大学校の学生が参加し、日頃の研究成果を発揮した。聴講も含め40名が会議に参加し、学生同士が親善交流を行い、この会議が将来にわたって重要な行事として定着しつつあることを感じた。

発表会の後、日韓からなる審査員5名による審査が行われ、参加チーム全員に北九州市長ほか主催者、協力団体からの賞状と記念品が贈呈され、閉会式に華を添えた。閉会式を兼ねた歓迎夕食会では、学生たちが賞状を手に満面の笑みをたたえ記念撮影をしていた姿が印象的だった。

#### (6)エキスカーション

最終日は産業観光の体験ツアーが企画され、北九州市の世界的なロボット産業である(株)安川電機の工場、及び北九州エコタウンを見学し2日間の日程を終えた。

#### (7)まとめ

2015年は2回目となるモンゴル・ウランバートル市での開催が予定され、北九州市代表から小島IFNAT会長を経てモンゴル国代表団長に大会旗が渡され、モンゴル代表団長からの歓迎のメッセージが述べられ、ウランバートルでの再会を誓った。

会議中、韓国TINA関係者と、会議の総括と今後の会議の運営体制のあり方などの意見交換も行われた。特に最近、国家間の問題が国際観光交流にも大きく影響し、本会議の開催や参加者にも影響を与えている現状だが、このような時期だからこそIFNATの継続開催の必要性が確認された。

従来から国際観光の発展と地域間交流の推進を掲げてきたIFNATであるが、政策的な実行性を高めるための会議として、参加各国間でウインウインの関係を構築するための具体的な提案もあった。より広域にわたる幅広い参加者の勧誘も急務で、第10回会議という節目を終え、11回目のウランバートル会議は新たな出発点となる。北東アジア地域における国際観光会議として民間団体・企業や地方政府レベル、研究者の参加で継続開催されている「北東アジア国際観光フォーラム (IFNAT)」は貴重な存在であり、小さな会議ながらその役割は大きいと感じた。



(基調講演者と大会主催者)